

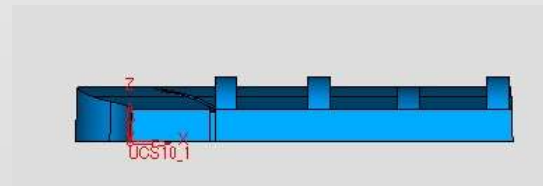
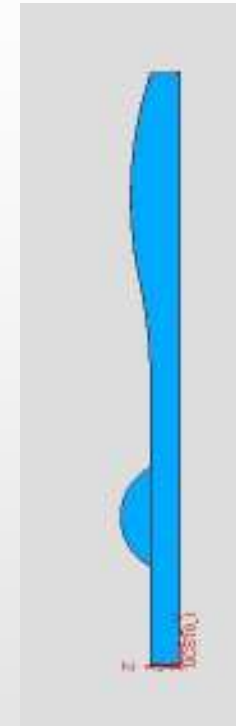
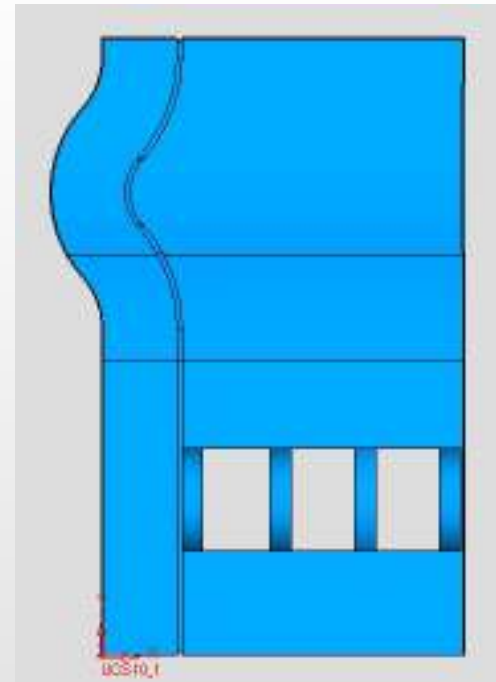
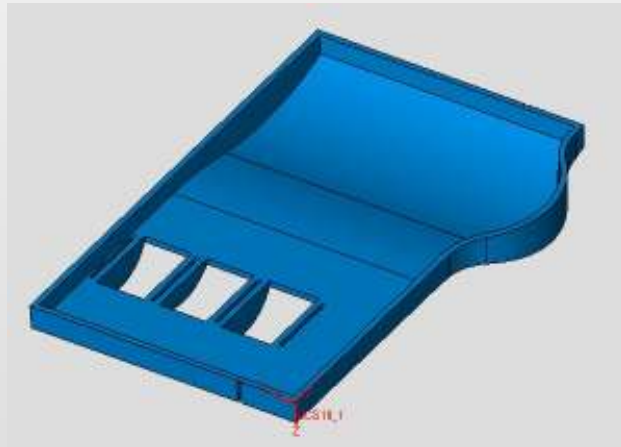
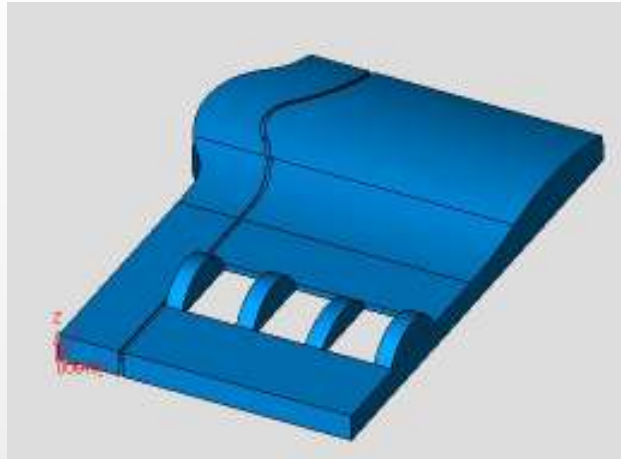
再生機能について



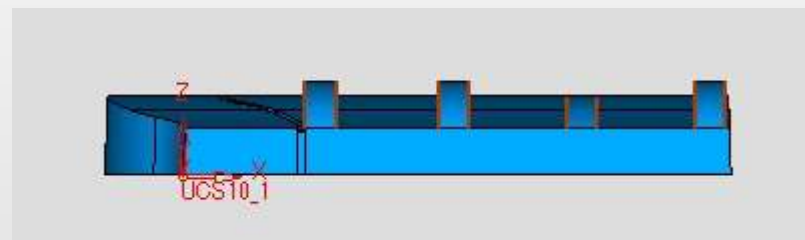
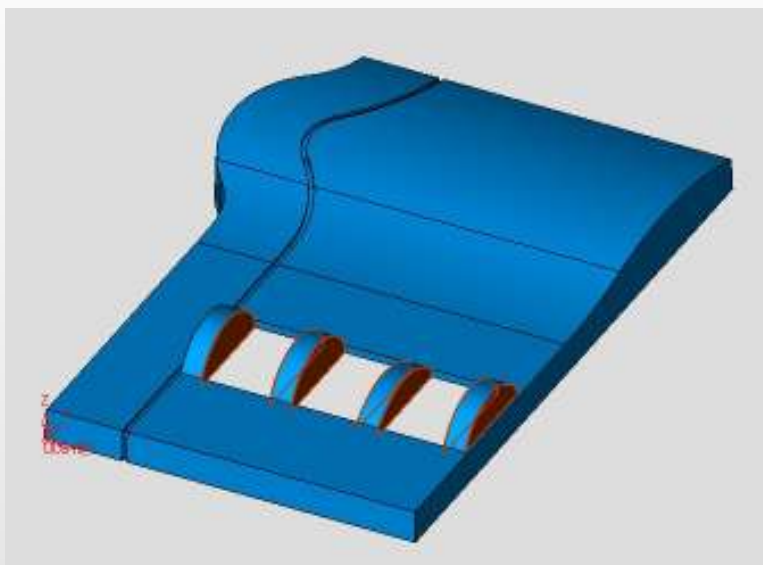
目次

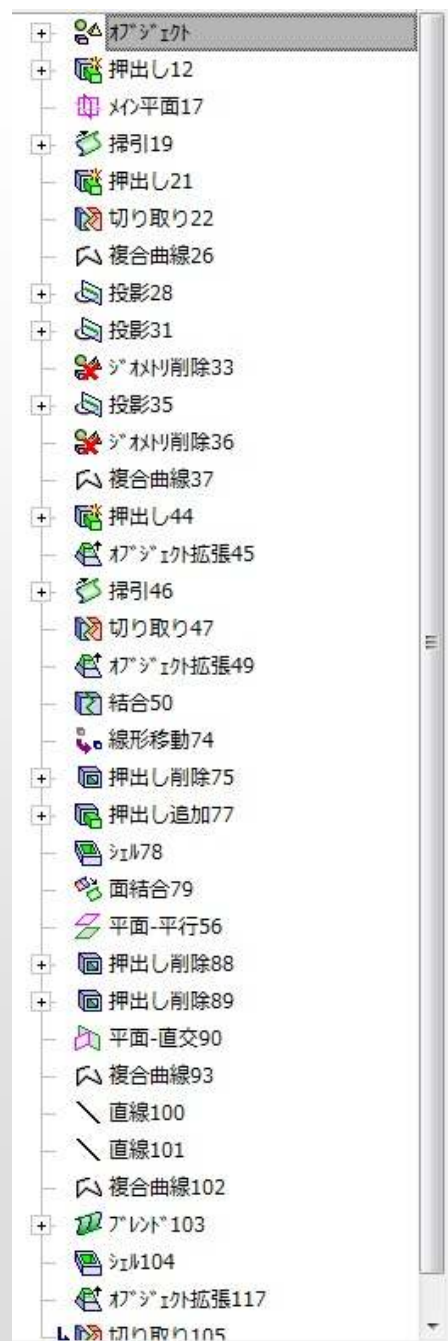
- モデルによる再生機能の説明.....3～11
- 再生機能の各ボタンについて.....12

このモデルを使って説明いたします。



履歴をさかのぼり選択面にテーパをつけます。
(1度付ける)





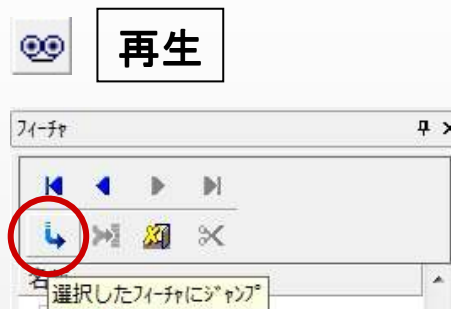
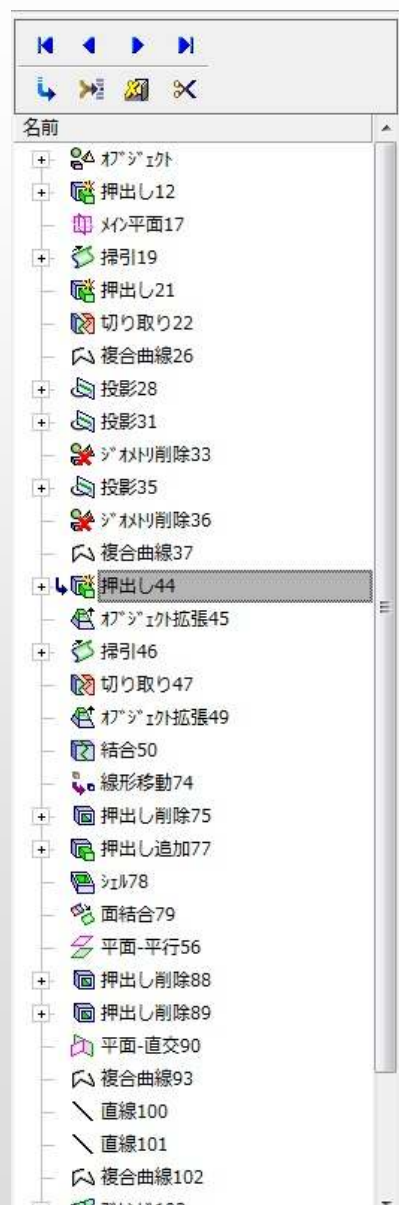
モデルを作成した履歴です。

どこにテーパを挿入するか考えます。

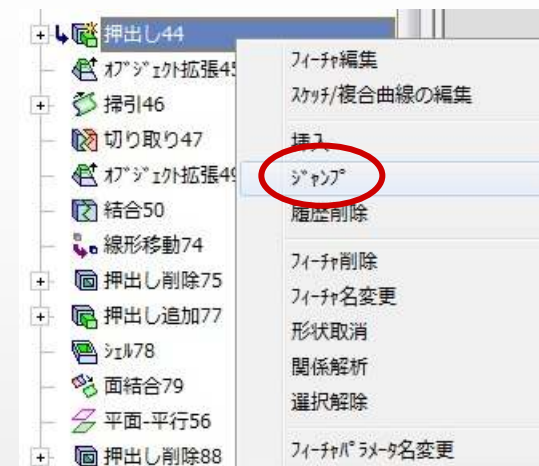
が、履歴を見ただけではどこに入れられるか分かりにくいです。

ここで、**ジャンプ機能**を使います。

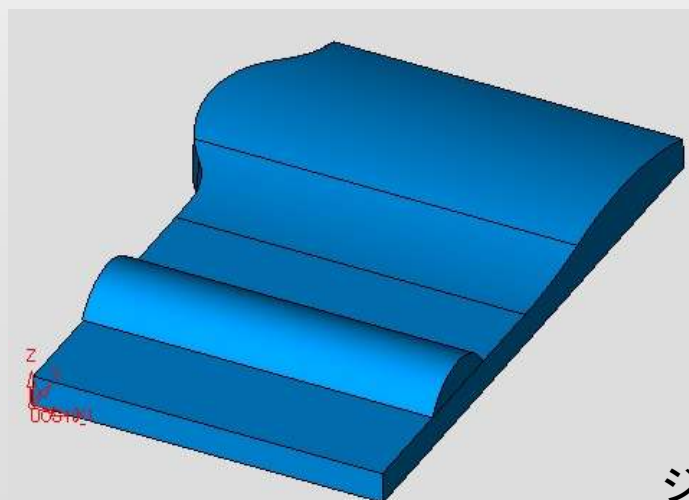
基本形状を作成したところにジャンプします。



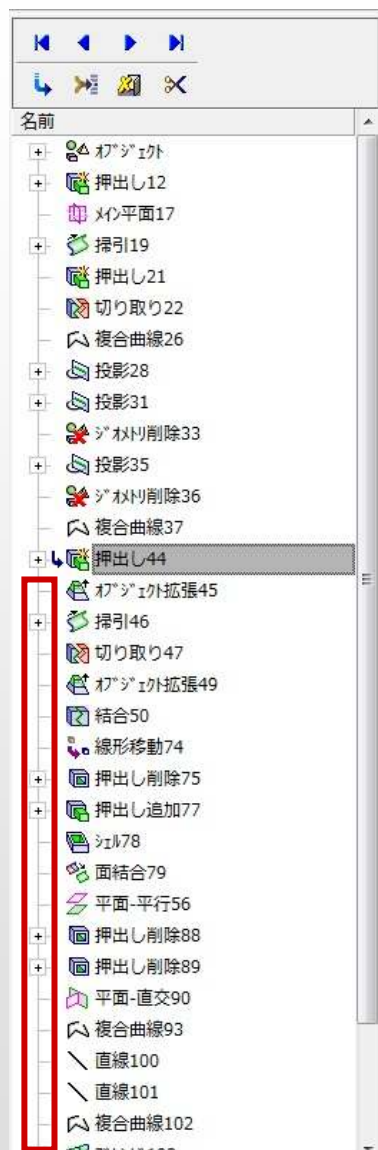
もしくは



③ボタン「ジャンプ」を押します。




ジャンプしたところの形状が見れます。



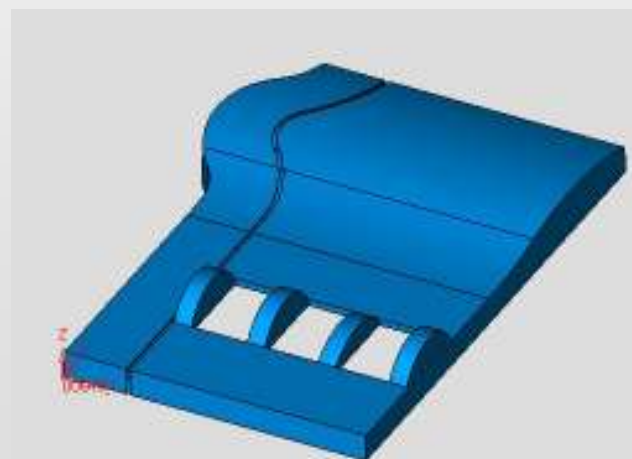
注目点はジャンプしてもジャンプした履歴以下にSマークが付かないことです。

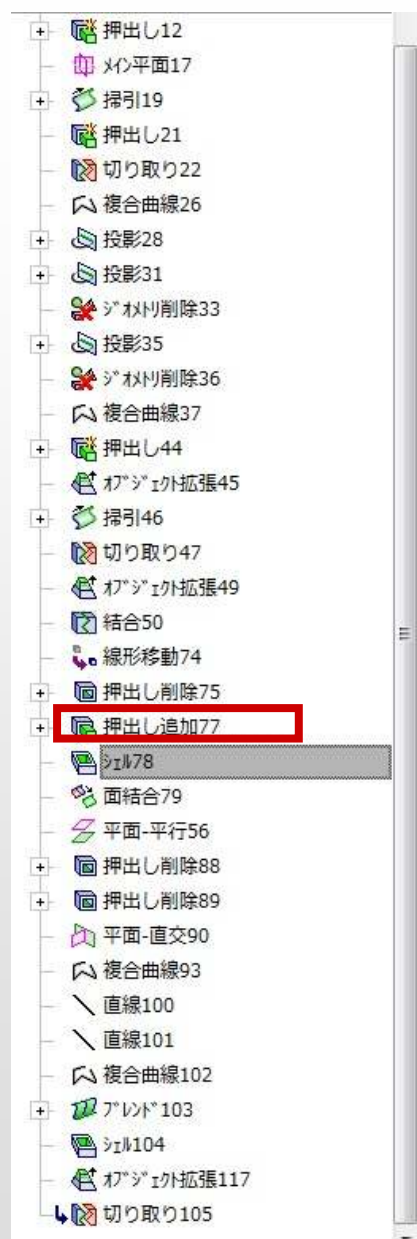
ジャンプ機能は「そのときの形状を確認する」という機能です。

なので、 を押せばすぐに最終形状に戻ります。

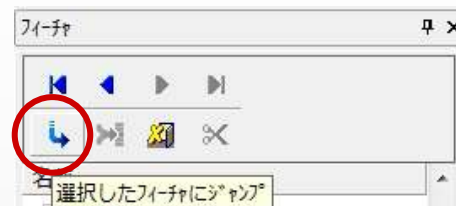
 終了


最終形状に戻ります。





ジャンプで形状を見ていくと目星が付いていきます。



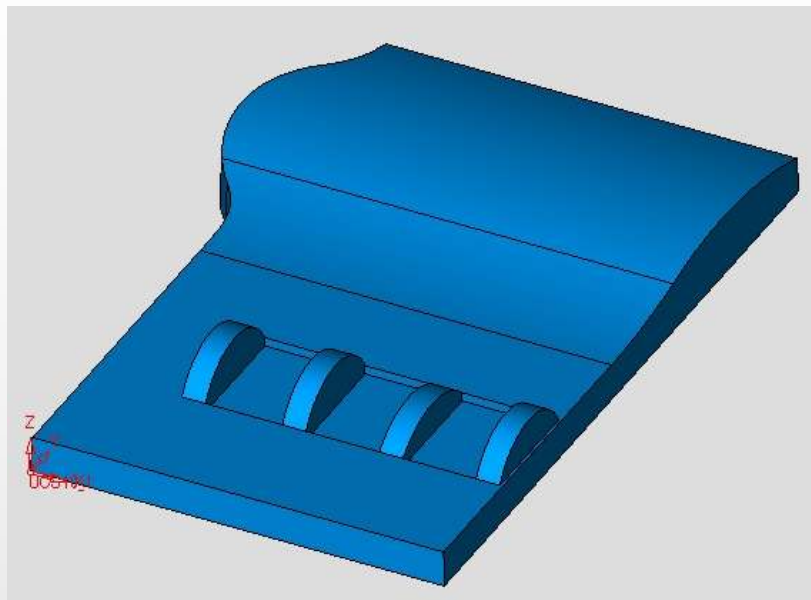
注意: ③ボタンのジャンプ機能は再生時に使用すると2回目でSマークが付き、3回目以降使えなくなってしまう。(E10も変わりません。) 1度再生に入ったら再生のバーにて  ジャンプを行ってください。

シェルの前にはテーパを付けたいのでシェルの前にジャンプをします。

押し出し追加77



選択したフィーチャにジャンプ



形状は確認できました。
ここで編集に入りたいと思います。

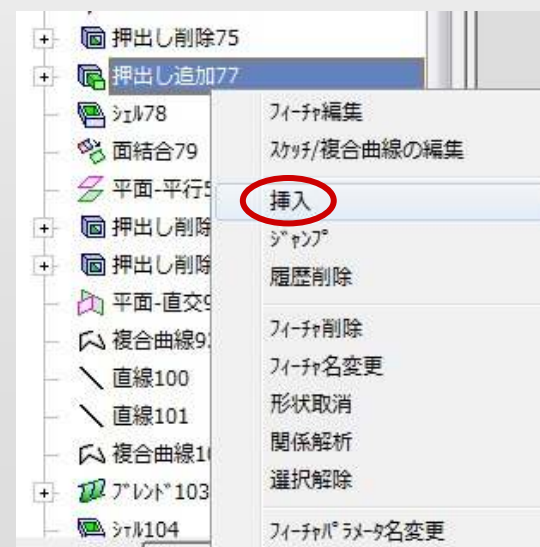
編集に入るために

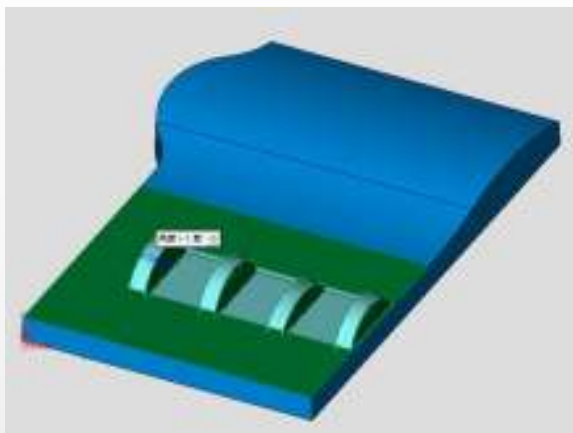
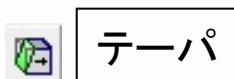


新規フィーチャ挿入

を押します。

もしくは、③ボタン「挿入」を押します。





1度付けます。



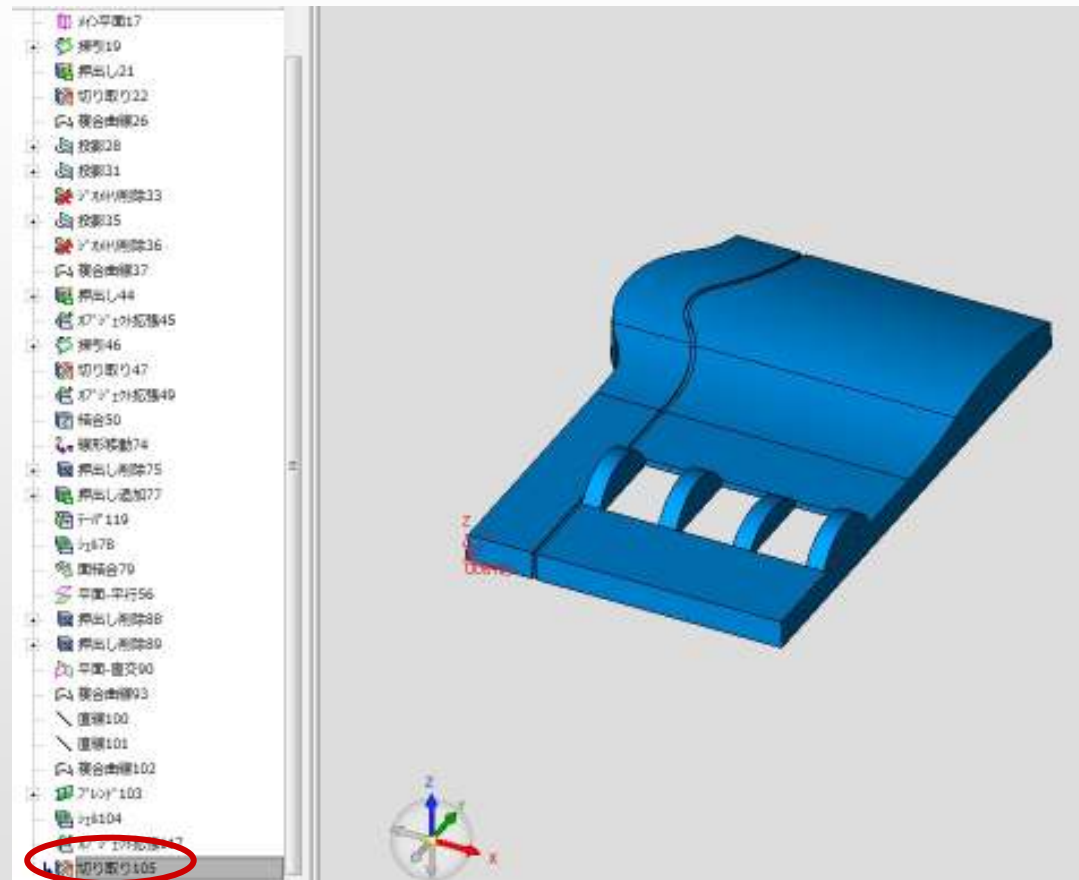
テーパの履歴が割り込みました。

以下の履歴は再計算のためSマークが付きます。
最終形状にするために 再生を押して
 最後へを押します。



再計算になるので時間がかかる場合があります。

最終形状まで再生できました。



再生機能について



再生



このバーがフィーチャツリーの上に出てきます。



履歴の頭まで戻ります。以下Sマークが付きます。



作業している履歴からひとつ戻ります。以下Sマークが付きます。



作業している履歴からひとつ進みます。以下Sマークが付きます。



履歴の最後まで再生します。



選択した履歴までの形状を見ることができます。



履歴に割り込んでフィーチャを挿入します。以下Sマークが付きます。



再生を終了します。Sマークがある場合その手前の履歴に入ります。



選択した履歴より下の履歴を削除します。
ボタンを押したときにこのように聞かれます。
「はい」で削除されます。

